



令和4年度

学校だより

伸びよう 豊かに たくましく ～学ぶ喜びにあふれた学校をめざして～

令和4年4月27日

横浜市立高田小学校

5月号

りゆうがあります

校長 赤坂 桂

桜の花が散り、寂しさを感じる間もなく、鮮やかな新緑が目美しく映るようになりました。道路の両側には赤や白のツツジが一斉に咲き、新しい季節の始まりを教えてください。学校でも新しい生活が始まってから1か月ほど経ち、子供たちも緊張感が解けて、自分らしさが発揮できるようになってきました。

さて、今回は一冊の絵本を紹介します。子供たちに人気の絵本作家ヨシタケシンスケさんが書いた「りゆうがあります」という絵本です。このお話の内容はこんな感じ。 「ぼく」のちょっとおかしい行動にあきれお母さんが注意をします。すると「ぼく」は「これにはりゆうがあるんだよ」と楽しい言い訳をするのです。

鼻をほじっているのは「鼻の奥にあるウキウキビームのスイッチを押してみんなを楽しい気持ちにしているんだよ」、ごはんをこぼしてしまうのは「ちいさいふしぎな生き物たちにごはんを分けてほしいと頼まれているから」なんだそうです。思わず笑ってしまうような楽しい言い訳ばかりです。

学校生活でよく見られるこんな場面も。廊下を走ってしまうのは、「ダッシュ虫が頭に止まっている」から。イスの上でじっとしてられないのは「教室の中を暴れ回る機嫌の悪いイスと遊んであげている」から。どれもユーモアあるりゆうです。

絵本を読んでいて実際の場面でも考え直すことがあります。高田小学校の廊下は長くてまっすぐなので、どうしても走ってしまう子がいます。見かけるとつい「走ってはだめだよ。」と注意するのですが、絵本のような理由ではないにせよ走ってしまう子供なりの理由があるのでしょう。「走ってはいけないルールだからダメ」で終わらせず、なぜ走ってしまうのかを理解し、なぜ走ってはいけないのかを子どもが納得できるように説明したいものです。

500を超える人が一つのところに集まり、皆が安全に気持ちよく生活するには、きまりが必要です。集団生活のきまりを納得して守ろうとする心情を日々の生活の中で学んでほしいと願っています。1年生から6年生まで発達段階に応じて人や環境とのかかわりを経験し、感性を広げて世界に通じる社会性を身に付けてほしいです。